Rotary
国際ロータリー第2770地区
第4グループ

小宮年度（2018～2019）

# 岩槻東ロータリークラブ週報

インスピレーションになろう

| | |
|---|---|
| 第36例会　1842号 | テーマ　小宮年度家族同伴花見例会 |
| 日　程　2019年4月2日(火) | 集　合　岩槻駅西口 AM 7:30 |
| 会　場　小田原方面 | 担　当　親睦活動委員会 |

## 会長挨拶　小宮　勇会長

お早うございます。今日は家族同伴健康増進合同花見例会であります。岩槻駅西口午前７時３０分集合出発と少し早い時間ではありますが、皆様と共に大いに楽しく過ごすことが出来ました。今日のこの移動例会に関しましてクラブ管理運営の増渕理事はじめ、親睦活動委員の皆様方大変お世話になり又、心付けや中里会員よりあられや漬物を頂き誠に感謝申し上げます。天気は良いのですが冷たい風が吹いており、まだまだ桜の花はしっかりと咲いていました。私も小田原城には10年前に見学をして以来でありまして、大いに興味がありました。又、「だるま」にて昼食、懇親が出来、建物も落ち着いた雰囲気でとても良かったです。小田原文学館、そして鈴廣蒲鉾店にての買い物等、本当に工程表通り時間が進行、無事に岩槻駅に午後６時３０頃には到着出来ました。有難うございました。

4月1日は平成の次の元号が発表されました。万葉集からの出典による「令和」と決まりました。

甲冑の中の人物は誰でしょうか？ お分かりになりましたでしょうか。答えは最終頁に。

**＜小田原城＞**

小田原城が初めて築かれたのは、大森氏が小田原地方に進出した15世紀中ごろのことと考えられています。1500年ごろに戦国大名小田原北条氏の居城となってから、関東支配の中心拠点として次第に拡張整備され、豊臣秀吉の来攻に備えて城下を囲む総構を完成させると城の規模は最大に達し、日本最大の中世城郭に発展しました。江戸時代を迎えると小田原城は徳川家康の支配するところとなり、その家臣大久保氏を城主として迎え、城の規模は三の丸以内に縮小されました。稲葉氏が城主となってから大規模な改修工事が始められ、近世城郭として生まれ変わりました。その後、大久保氏が再び城主となり、箱根を控えた関東地方防御の要衝として、また幕藩体制を支える譜代大名の居城として、幕末まで重要な役割を担ってきました。

しかし、小田原城は明治3年に廃城となり、ほとんどの建物は解体され、残っていた石垣も大正12年(1923)の関東大震災によりことごとく崩れ落ちてしまいました。

現在の小田原城跡は、本丸・二の丸の大部分と総構の一部が、国の史跡に指定されています。また、本丸を中心に「城址公園」として整備され、昭和35年(1960)に天守閣が復興、次いで昭和46年(1971)には常盤木門、平成9年(1997)には銅門、平成21年（2009）には馬出門が復元されました。さらに小田原市では、貴重な文化的遺産である小田原城跡をより一層親しんでいただくとともに、長く後世に伝えていくことを目的として、本格的な史跡整備に取り組んでいます。

**4月1日、この日は平成の次の元号が発表され、4月2日の朝の新聞に掲載されました。生涯忘れられない日となる事でしょう。そして、幸せな事に岩槻東クラブの会員皆と「家族同伴花見ハイキング例会」小田原城と北原白秋資料館並びに文学館などの見学を致しました。お昼は明治から続いている日本料理の「だるま」にて、天麩羅や天丼などを美味しくいただきました。写真上は小田原城天守閣からの相模湾風景と資料館にて、橋本かほる会員です。又、観光スポットの案内はすべて増渕 明理事に提供して頂きました。有難うございます。**

**＜だるま料理店＞**

小田原市本町（旧大手町）に店を構える、明治26（1893）年創業の日本料理店でございます。
網元であった、金沢出身の達磨（たつま）仁三郎が創業し、だるま大師の縁起にちなみ、屋号をだるま料理店と登録いたしました。相模湾で水揚げされる魚介を中心に使った、天ぷらや寿司などの料理が評判を呼び、今日に至ります。創業から続く名物の天丼は、特性の香り高いごま油が香り高く、衣はかりっと、身はふわっとやわらか。
天つゆは門外不出の継ぎ足し、継ぎ足しで味を守り、これを目当てにお越しいただくお客様も大勢いらっしゃいます。

**明治から続いている日本料理店「だるま」の正面風景。**

**増渕　明管理運営担当理事、ご苦労様です。**

**「だるま」にて、昼食時の乾杯…昼のお酒も中々旨い!!**

**天気にも恵まれて、美味しい天麩羅にお酒が進みます。**

**＜白秋童謡館・小田原文学館＞**

福岡県柳川市に生まれた北原白秋は、大正７年から１５年までの８年間を小田原で過ごし、この間に全童謡作品の半数近くを創作しています。これを記念して、童謡集や童謡原稿など北原白秋に関わる資料を展示しています。また併設されている小田原文学館では、谷崎潤一郎や坂口安吾など、地元の文学者の資料が展示されています。建物も、本館は昭和１２年築のスペイン風建築、別館は大正１３年築の純和風建築となっております。

白秋資料館前にて、純和風建築で大正13年に建てられたとの事です。

2019-2020年度飯淵昭二会長と奥津雅史幹事、次年度も宜しくお願いします。因みに甲冑の中の人物は飯淵昭二会長エレクトです。お似合いです。

北原白秋作の「赤い鳥小鳥の歌碑」

文学館の中の展示物、谷崎潤一郎や坂口安悟など